

# ほいくえのわ

学校法人 正和学園

【企業主導型保育】つながりシェア保育園・代々木上原

(東京都渋谷区上原2-32-5)

2022年3月27日 (日)

10:00~14:00

## 【大切にしているのはこんな保育】

### ☆起点はいつも子ども。保育者は観察者でありサポーターである

子どもの姿を観察していると、キラリと瞳の輝く瞬間があります。子どもが今何に興味を示し、何を欲しているか。そこを起点に環境を整えていきます。そしてそれも日々変化するため、いかに柔軟に環境を見直し続けていくか、それが保育者の務めだと思っています。歩いていた子どもが急にしゃがみ込んだ、そんな時は「早く行くよ」ではなく、少し待って「何を発見したのかな」という視点で子どもの心の動きを大切に見つめています。また、保育者主導の出し物等は基本行っていません。発信者はあくまで子ども。子どもの発信をいかに形にしていくか。保育者はそのサポーターだと思っています。

### ☆行事は多くない分、日々の成長を丁寧に共有

ポートフォリオやドキュメンテーション、双方向のやり取り可能なアプリ等を活用し、子どもの日々の成長を丁寧に共有しています。保護者にとっては、「我が子にこんな一面があったんだ」「それってこの子の魅力なんだ」などという気付きとなり、それが子育ての楽しさに繋がります。“披露“でなく”子どもの成長を伝えること”にこそ重きを置きたいと考えています。



窓一面にお絵かき

## 【目指しているのはこんな保育】

### ☆一つの経験にいかに「つながり」を持たせられるか

保育園だからこそできる経験（最近では味噌作り、たい肥作り、かし作り、魚さばき等々）を取り入れています。課題は、それらを「あ～楽しかったね」で終わらせないこと。その経験をいかに生活やあそびの中に取り込み、子どもの新たな発見や学びに展開させていくか。持続性のある保育を目指しています。



魚の頭を抱える男の子！

## 【お話をくださったのはこの方】



「子ども中心。子どもの興味・関心・意欲を起点とする保育」が大切だと力強く仰る前田先生。職員育成に関しても同様とのことです。トップダウンでなく、それぞれが子どもの姿に即して考えた保育をまずは実践する。大切なのは、振り返ってまた次に繋げることだと断言なさっています。また、カリキュラム全般のアドバイザーの役割を担う高階先生は、職員一人ひとりに寄り添いながら共に保育を考えられています。なぜその保育をするのか、どうして思うようにいかなかったかなど、子どもの様子と照らし合わせながらアドバイスなさいます。現場職員には心強い限りですね。

(右：施設長 前田 秀和さん)

左：カリキュラムコーディネーター兼  
0歳児クラス担任 高階 咲子さん)